

# 博物学のすすめ —岡山県地学教育の再構築—

小網 晴男 (岡山県立岡山朝日高等学校 全日制・普通科)

**要約:** 高校地学教育が長期間実施されない場合、小・中学校の地学教育の質・量の低下、岡山県民の地学リテラシー低下につながる。前世紀末から環境や防災教育の重要性が叫ばれる中、岡山県の高校生に対し「地学を学ぶ場」を提供できなかった過去を振り返り、岡山県地学教育の再生に至るまでの取り組みを紹介する。

## 1. はじめに

平成 24 年(2012 年)、現行の学習指導要領施行と同時に、私立山陽女子高等学校において「地学基礎」の授業が開始された。翌年、岡山県立岡山朝日高等学校が続き、他の専門分野の先生方、学校、岡山県教育委員会のサポートのもと 2 年生文系 4 講座の授業が始まった。令和元年現在、「地学基礎」は公立高校 8 校、私立高校 6 校、「地学」は私立高校 1 校で開講されるまでとなった。

## 2. 岡山県高校地学が実施されなかった要因

昭和 57 年(1982 年)から 4 年間、高校地学教育は、地球惑星科学を学んだ先生方と他の専門分野の先生方の協力のもと、共通一次試験必受験科目「理科 I」の地学分野を通して実践された。それ以降、この規模で地学教育が実施されなかった要因を筆者なりに考えてみた。次に挙げる①～⑤の要因が複雑に絡み合い、高校における地学の授業の実施を妨げたと考えられる。

- ① 晴れの国岡山では、自然災害が少なく地学・防災教育の必要性が低い
- ② 新設校(3 校)と理数科、理数コースで科目「地学」が教育課程上に設定されなかった
- ③ 理科の教員採用が科目毎に継続的に実施された
- ④ 各高校のカリキュラムマネジメント
- ⑤ 小学校・中学校の理科教育における地学分野の実践

## 3. 岡山朝日「地学基礎」の展開例

本校は、全日制普通科 9 クラス(定員 360 名)の大規模校である。1 授業時間は 55 分、図 1 に示すように、教育課程上の「地学基礎」は、文系は 2 年(1)、3 年(2)、理系は 3 年(2)、いずれも選択科目として設定されている。令和元年度、「地学基礎」

は 2 年文系 2 講座(27 名)、3 年文系 3 講座(109 名)で展開している。幸いなことに「地学基礎」の授業を実施している教室は、地学以外の授業がなく地学教育と環境・防災教育を意識して整備を行うことができた。

1年	2年	凡例												
<table border="1"><tr><td>p</td><td>c</td><td>b</td></tr></table>	p	c	b	<table border="1"><tr><td>p</td><td>c</td><td>b</td></tr><tr><td>Geo</td><td></td><td></td></tr></table>	p	c	b	Geo			p 物理基礎 c 化学基礎			
p	c	b												
p	c	b												
Geo														
3年 文系	理系	b 生物基礎 Geo 地学基礎 P 物理総合 C 化学総合 B 生物総合												
<table border="1"><tr><td>c</td><td>b</td></tr><tr><td>c</td><td>Geo</td></tr><tr><td>b</td><td>Geo</td></tr></table>	c	b	c	Geo	b	Geo	<table border="1"><tr><td>P</td><td>C</td></tr><tr><td>B</td><td></td></tr><tr><td>Geo</td><td></td></tr></table>	P	C	B		Geo		
c	b													
c	Geo													
b	Geo													
P	C													
B														
Geo														
時数1 2 3 4	1 2 3													

図 1 岡山朝日高校の教育課程

## 4. 博物学のすすめ

岡山県地学教育の再生を可能にした大きな要因として、①岡山県教育委員会が岡山県総合教育センターにおける地学関連研修講座を継続して実施したこと、②岡山県高等学校教育研究会理科部会が地学分科会を存続させ活動を支援したことが挙げられる。このことで、様々な年齢層に地学の面白さと必要性を伝え広げることが可能になった。例えば、100 校プロジェクトや地質学会岡山大会では高校生に、青少年の科学の祭典では小・中学生そして保護者に。また、集まれ科学好き発表会やサイエンスチャレンジ、中高合同で開催される研修講座では参加した教員に、専門とする科目は異なるが同じ理科の教師であるという意識と共に。

## 5. おわりに

つたない実践に発表の場を与えてくださった宮嶋 敏氏、常に分科会の活動を支援してくださった岡山大学鈴木茂之教授に感謝いたします。

参考文献

松本直紀他(2017) 高等学校における総合的な理科学目設置に関する考察, 天文教育 2017 年 11 月号

小網 晴男 (岡山県立岡山朝日高等学校 全日制・普通科) :

h-koami at i.softbank.jp